

# 無窮会専門図書館天淵文庫蔵 『孝経刊誤考例』

本 村 昌 文

## 一、解説

『孝経』という書は、日本において古代から尊重されてきた。本格的に宋明学の書物が流入した江戸時代には、『孝経』に関する数多くの注釈書が生まれている。

とりわけ、江戸時代には朱熹が大胆にテキストを校訂した『孝経刊誤』が大きな影響を与えた。江戸後期になると、その『孝経刊誤』に対して、考証学の立場から批判的検証がなされるようになる。しかし、それまでは概して、朱熹の『孝経刊誤』は好意的に受け止められていた。

本稿で紹介する『孝経刊誤考例』という書は、後述するように十七世紀半ばに執筆・刊行され、『孝経刊誤』が朱熹の著作ではないことを論ずることを目的としている。『孝経刊誤』が好意的に読まれていた当該時期では、珍しい内容を持つ書である。さらに、同書は『国書総目録』（岩波書店）、「日本古典籍総合目録データベース」（国文学研究資料館）には記載されていないため、ほとんど忘れ去ら

れた存在となつている。以下、同書について、簡単な解説を記しておきたい。

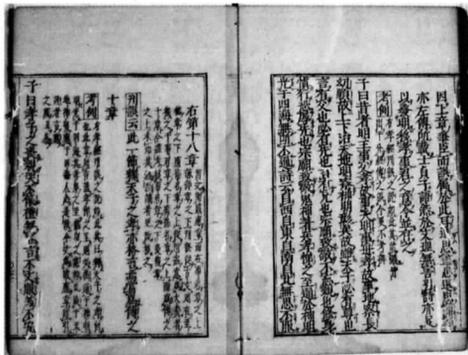


写真 1. 『孝経刊誤考例』

本稿で紹介する『孝経刊誤考例』は、現在、無窮会専門図書館天淵文庫に所蔵されている。形態は、タテ二七五ミリ×ヨコ一九五ミリ、全二七丁、和綴の刊本である。原文は毎半葉九行、毎行二〇字、割注部分は小字双行である(写真1)。同書二丁表に「昭和

三十四年一月寄贈 無窮会蔵 天淵先生」と押印されている。「天淵先生」とは、加藤天淵（諱・虎之亮、字・子弼、号・天淵、明治二年〜昭和三年）。天淵は、静岡高等師範学校、広島高等師範学校で学び、同附属中学校、陸軍幼年学校、青山師範学校で教鞭をとり、大正十一年に武蔵高等学校（現武蔵大学）設立時に漢文科教授となり、大東文化学院、二松学舎専門学校などでも教え、昭和二十三年には東洋大学学長に就任、周礼を中心とした研究を専門とする近代の漢学者である（『天淵文庫蔵書目録』、無窮会、昭和三九年）。無窮会専門図書館天淵文庫は、加藤天淵の死後、遺族より寄蔵された蔵書コレクションである。

話を『孝経刊誤考例』に戻そう。本書の刊行年代は、第二六丁（本文の最終丁）に「万治貳年 林鐘上旬 池田屋刊行」とあることから、万治二年（一六五九）六月とわかる。

本書には、作者名は明記されていない。しかし、作者なし執筆に関わった人物の手がかりは残されている。本文が終わった次の丁（第二七丁）には、「右孝経刊誤考例一冊附与門人津田元養生 靈蘭堂」と記され、「向井氏」の印が押されている。「向井氏靈蘭先生碑銘序」（貝原益軒著）に「先生晩年更一名元升字以順、自称 觀水子、其前堂号 靈蘭、故門人尊之稱 靈蘭先生」（『自娛集』巻之七）

をふまえると、「靈蘭堂」という記載、「向井氏」の押印から推測される人物は、長崎・京都で医を業とした向井元升（一六〇九〜一六七七）である。

元升は当時「儒医」と呼ばれ、儒教と医学に精通した人物であった。長崎では中国からの輸入書籍を選別する任にあたっていた。また孔子を祭る聖堂を建設し、儒教の普及にとめた。彼の建設した聖堂は、寛文三年（一六六三）に焼失し、延宝四年（一六七六）に再建され、現在はその一部である大学門が長崎の興福寺の中に残されている。聖堂の焼失前、万治元年（一六五八）に元升は京都へ移住して、後水尾天皇を診療するという任も果たしている。

元升の著作は、儒教、医学、天文学、本草学など多岐に及ぶ。このうち、儒教関係の著書として注目されるのが『孝経』の注釈書である。その書は、寛文四年（一六六四）に執筆された『孝経辞伝』である。同書中には、以下のようない記述がある。

世有孝経刊誤行。諸儒皆謂、朱子刊誤。如朱子行状及朱子大全等之書、俱載其目。若不可疑者、然以愚見之、不能無疑。（返り点は原資料のまま。以下同じ）

元升が『孝経辞伝』を執筆した当時、世の中では朱熹の『孝経刊誤』が流行し、みなその書が朱熹の書として信じて疑

われない。しかし、元升は朱熹の『孝経刊誤』が朱熹の書であるということに疑問を抱いているのである。そして、以下のように述べている。

万治巳亥春、弁<sup>シテ</sup>孝経刊誤非<sup>ハ</sup>朱子判定之書<sup>ニ</sup>、号<sup>シテ</sup>曰<sup>ク</sup>「孝経刊誤考例」今不<sup>レ</sup>附焉。

この記述によれば、元升は「万治巳亥」に朱熹の『孝経刊誤』が朱熹の書ではないことを弁じた『孝経刊誤考例』という書を作成していた。「万治巳亥」は、万治二年である。無窮会専門図書館天淵文庫に所蔵されている『孝経刊誤考例』は、万治二年六月に刊行されており、ここに引用した元升の記述と矛盾しない。

次に文体の面からも検討してみよう。『孝経刊誤考例』の構成は、基本的に『孝経』本文↓朱熹『孝経刊誤』の記述↓考例(自説を述べた箇所)となつてゐる。この「考例」の部分は、冒頭に「右孝経刊誤之説如此」(右、孝経刊誤の説、此くの如し)と記され、それに続けて『孝経刊誤』に対する批判が加えられていく。この叙述スタイルは、『孝経刊誤考例』の執筆と同じ万治二年に作成された『乾坤弁説』にもみられる。『乾坤弁説』は、転びバテレンの沢野忠庵(一五八〇頃〜一六五〇)が訳出したと伝えられる西洋天文学の学説を記した書である。この書には、元升の批判が「弁説」として付されている。同書は、西洋天文学の学説

↓元升の「弁説」という構成になつており、「弁説」の書き出しは、「右南蛮学士の説如此」(「右南蛮学家の説如」是)『文明源流叢書』(二)等となつてゐる。

では、『孝経』の捉え方については、どうであるうか。『孝経辞伝』では、「若<sup>キ</sup>第一章第七章第九章、苟<sup>シ</sup>是<sup>レ</sup>天人一脉、至<sup>リ</sup>当<sup>リ</sup>之極説。不<sup>レ</sup>可<sup>カ</sup>以<sup>テ</sup>不<sup>レ</sup>講也」と、『孝経』第一章・第七章・第九章を重視していた。とくに第七章と第九章は、「此章(第九章のこと——本村注)と第七章、乃孝経之真骨」とまで述べている。この第七章と第九章について、元升は天地開闢から現在の自己にまで連綿と受け継がれてきた「本性」を自国の生活様式に従つて保持し、それによつて自己の「本性」が死後も子孫に伝わり永続すると捉え、人間の生と死の根幹を述べた箇所と解釈している(拙稿「向井元升と『孝経』——連続する「本性」——」、『文芸研究』一四九、二〇〇〇年)。このうち、第九章に関しては、『孝経刊誤考例』においても、「此章之義、蓋孝経全篇之要也」(本稿八一頁)と述べており、『孝経辞伝』と同様に重視していたことがわかる。

『孝経刊誤考例』は『孝経刊誤』が朱熹の著作でないことを論じることが目的のため、『孝経』本文の解釈が明確になつてゐるわけではない。それゆえ、『孝経辞伝』の解釈との共通性を抽出することは困難であるが、以上のよう

な『孝経』本文の重視する箇所という点に類似性を見いだすことができる。『孝経刊誤考例』は、『孝経刊誤』を批判的に検証し、『孝経』注釈を通して語られた元升の死生観の形成過程を検討する上で注目すべき資料である。さらに、十七世紀半ばにおける朱熹の『孝経刊誤』受谷の一端を示す一資料としても、その意義は認められよう。

## 二、資料紹介

### 【凡例】

一、旧字体は原則として通行の字体に改めた。

一、返り点・送りがなは、明らかな誤りと思われる箇所も、テキストに付されている通りに翻刻した。ただし、再読文字の再読部分の送りがなについては、組版の都合上省略した。なお、送りがなには合字も使用されているが、それらはすべて通行の表記にした。

一、原資料に句読点は付されていないが、読みやすさを考慮し、適宜句読点を付した。

一、破損などにより判読不能の箇所は、■で記した。

一、原資料中、一文字空いている箇所は、□で記した。

一、資料中の割注は〈 〉で括り示した。なお、〔 〕は筆者による注である。

一、本稿は、科研費・基盤研究(C)「介護と看取りの現場に根ざした近世日本思想史研究の構築」(課題番号 23520094)の成果の一部である。

### 孝経刊誤考例序

孝経者聖門之真経也。其詞平易而其理易曉、其言斬進而其旨無極、正顔子所謂夫子循々然善誘人、信然矣哉。蓋聖人之徳教一本於此矣。当初此経避乎秦燼之災、而感乎孔壁之中、遇漢儒之好占、而闢後世之迷途。自漢以來、読者浸多、註家不少、而有古文今文是非真偽之議。又有孝経刊誤。其書為経伝之別、正与大学相擬。自宋至於元明諸儒、皆謂朱子刊誤。至我日域、則士君子存而不論。俯惟神明命有徳、黎元浴太和、

治教休明、□万国咸康。当此之時、志士出于浮囿之場、仁人起于茅茨之下、而後英雄賢哲之士、相尋起者、濟濟不少。自

公侯大人以至於庶人、尊徳性而道問学、海内翕然歸道也。今幸遇此盛時、釣漁有間暇、則私得窺朱家之牆隙也。謹按孝経刊誤、疑非朱夫子之書矣。越竊發疑、以考例附説而正義。雖文字姑仍刊誤、而編次遂復

古本、題曰孝經刊誤考例。夫以孝經本是孔子之言、而無始有經傳之分也。非敢議先賢之書、以眩後學之見。特要自助思弁、以決疑慮已也。然極知僭踰、恭仰君子、嘉惠俟罪、落陽僑居云爾。

孝經刊誤考例

凡例

一 凡聖人之書必有之傳。經乃說天人之道、伝必釈經文之義。又附伝者之說、以発経文言表之意。乃其例也。若仲尼周易伝、曾子大學伝、春秋三伝之類是也。若夫孝經刊誤、則其曰伝文者終篇皆孔子之言、而無伝者發明之說。此非古人作伝之例。刊誤之云可疑也。

一 凡伝文必挙経文一釈之。乃其例也。若周易有「二曰「へ周易每卦有象曰「有象曰「是也」、大學有「二謂「へ大學伝文每章章首有所謂二字以挙経文、章尾有「此謂二字以結経文之意、是也」之類是也。悉無非「伝者發明之說也。若引「他書、則又附「伝者之說、以明「其義「へ大學伝首章引詩引書、若「有「皆自明之語「是也。他書作「伝者、亦皆此例也」若「夫孝經刊誤、則伝文終篇無「其法也。疑「非「曾

子伝文。

一 凡古人作「伝者、後世所謂註也。是故經本有「此理、伝必釈「此理。乃其例也。周易大學春秋等之伝、皆無「不「然也「へ他書伝文、皆同「之。若「夫孝經刊誤、則有「経自経、伝自伝者「へ若「為「伝之三章伝之四章者、可「疑也。無「釈「経之意。有「無「経而有「伝者「へ若「為「伝之十二章伝之十三章伝之十四章者、皆無「釈文。然「此謂「経文之伝者「何。有「有「経而無「伝者「へ伝之十章為「釈「天子之孝、伝之十一章為「釈「士之孝、而若「諸侯卿大夫及庶人之孝、則有「経而無「伝。皆非「古人作「伝之例。此謂「孝経之伝「可疑也。

一 凡古人之書、事異義殊、則更「端別「章。乃其例也。若「四書六経有「分章「是也。若「夫孝経刊誤、則事既異、義既殊、而猶有「下連「旧文六七章、合「為「一章者「へ刊誤為「経一章者「是也。義未「尽、有「分「為「一章者「へ今文第九章、刊誤分為「伝之五章伝之六章。此章特「有「深意。苟「不「可「下「為「二章、為「三章。又大學伝文次序不「錯、血脉貫通。若「夫孝経刊誤、則其曰「伝文簡編、無「次無「血脉貫通之意。此謂「朱子刊誤者「可疑也。

凡古書有誤字衍文者、註家存之、不刪。但於註下評之。乃其例也。周易周書大學之類、是也。周易否卦有之、匪人三字。本義以為衍、而不刪。大學親民之親、程朱為當作新而親、字不刪。身有之、身作心、心而身字猶存。周書武成篇有朱子考定、而旧文不刪之類、皆朱子之敬謹也。若夫孝經刊誤、則所引詩書及子曰、或雖本文有未得于己之意者、悉刪去之。不可遽謂朱子刊定。

凡古人說道說禮、及竇主禮接之和、君子諷議之云、其言有盡而意未盡、則引詩引書及引前人之嘉言者、乃其例也。四書六經所載、不可誣也。若夫孝經刊誤、則悉刪去之。存者僅一二而已。刪去大雅之詩、其罪至重矣。其無愧于其先乎。豈其無後乎。謂之朱子刊誤、余不之信也。

凡人說道說禮之時、雖未必襲取他人之語、而道則言同者有之。世同居異、則不相識、而其言同者有之。或有誦前人之嘉言者、二書相載語意同者、兩可相存。乃其例也。若周易文言之語、見于左傳之類、是也。周易本義存而評之。若夫孝經刊誤、則与左傳之語偶同者、是彼

非此、而刪去之、存者無幾也。可謂非朱子刊誤也。

凡聖人之教、以順天下為道也。天下之本在國、國之本在家、家之本在身。孔門之教本未止者、乃其例也。若大學条目中庸孟子天下國家等之語、是也。若夫孝經今文、則刪去閨門章、而脫國之本。豈不大誤矣乎。孝經刊誤雖非朱子刊定、而載閨門章者、是得復孔門之旧、今從之。

凡朱子刊定之書、有數種也耳。其所論弁經伝子史古今文、悉載朱文公語錄類要中、而無論弁孝經之云。又胡應麟論弁古今偽書、亦無孝經為偽書傳會之說。唯有黃勉齋所撰朱子行狀、載孝經刊誤之号、若不當疑然矣。或云、朱子年譜亦載之。然余不幸有未安焉者。愈讀愈疑、依疑考例。吳文正公云、宋大儒司馬公醋尊信之。朱子刊誤亦拋古文。未能識其何意。今觀邢氏疏說、則古文之為偽書審矣。又觀朱子所論、則雖今文亦不無可疑者焉。疑其所可

疑、信、其可、信、去、其當、去、存、其、所、當、存、朱子意也。余幸、有、此、言、遂、疑、其、所、疑、信、其、所、信、以、爲、此、書、以、望、君、子、開、示、愚、者、疑、問、亦、有、例、也。請、莫、罪。

一  
凡、信、書、疑、書、皆、有、例、也。而、疑、孝、經、信、刊、誤、者、有、言。朱子語錄云、孝疑疑、非、聖人言也。且、如、先、王、有、至、德、要、道、此、是、說、得、好、處。然、下、面、都、不、曾、說、得、切、要、處。着、他、說、得、孝、之、效、如、上、此。如、論、語、中、說、一、孝、皆、親、切、有、味、都、不、如、此。士、庶、人、章、說、得、好、只、是、下、面、都、不、親、切。既、有、此、言、則、刊、誤、何、疑、也、乎。顧、此、語、亦、疑、非、朱、子、之、言、也。夫、論、語、說、孝、皆、就、心、上、而、明、孝、之、理、未、就、事、上、而、說、孝、之、備。是、故、其、言、親、切、有、味。然、懿、子、武、伯、子、游、子、夏、聞、焉、無、再、問、則、孔、子、亦、不、復、詳、說。至、孝、經、則、曾、子、問、者、三、四、孔、子、開、示、詳、說。蓋、曾、子、之、學、問、之、不、審、不、措、愈、問、愈、審、其、辭、平、易、其、旨、易、曉、其、事、該、備、其、範、極、量、正、顏、子、所、謂、夫、子、循、循、然、善、誘、人。可、見、於、此、雖、有、誤、字、闕、語、何、痛、刊、之、乎。依、刊、誤、者、以、下、辭、氣、平、易、似、卑、近、且、有、其、語、見、于、左、伝、者、遂、以、

七四  
後人傳會、而辭之、以刊其誤、而作書、託之朱子大儒。孝經詳說、論語簡雅、各有其體、文公豈必以彼期此乎。惟冀識者正之。

孝經刊誤考例

仲尼問居。曾子侍坐。子曰、參、先王有至德要道、以順天下。民用和睦、上下無怨。汝知之乎、御本無間坐參三字。間坐二字宜從刊誤、而存之。參字當從御本、而去之。猶詳孝經註。曾子避席曰、參不敏。何足以知之。子曰、夫孝德之本也。教之所由生。御本有也字。復坐。吾語汝。身體髮膚受之父母。不敢毀傷、孝之始也。立身行道、揚名於後世、以顯父母、孝之終也。夫孝始於事親、中於事君、終於立身。大雅云、母念爾祖、事修厥德。

右第一章、旧文曰、開宗明義章。考例、刊誤刪去大雅詩、大誤矣。蓋君子之行、孝也、欲下事父母、及先祖、是故經言、事親之孝、詩言、事先之孝。中庸礼記及孝經所載之祭祀之說、未下有特祭父母、而遺先祖者矣。繼述之孝亦在茲哉。是知、此詩非後人附會、以間隔聖言。

而為刊誤者、遂刪去之。其無後乎。

子曰、愛親者不敬惡於人、敬親者不敬慢於人、愛敬盡於事親、而德教加於百姓、刑于四海、蓋天子之孝也。甫刑云、一人有慶、兆民賴之。

右第二章へ旧文謂天子口章。考例刊誤刪去子曰及甫刑者、殊無義矣。前章孝經開卷第一義也。故先述孝之所以為孝也。夫孝之為道、父子之親一也。然人有貧富、爵有貴賤、則行孝之具不能無品差。是故述五等之孝節、使孝子孝孫無過不及、是以更端分章、以加子曰字。至甫刑云、則是順天下、民用和睦之意也。不宜刪去之也。

在上不驕、高而不危。制節謹度、滿而不溢。高而不危、所以長守貴也。人諛無也。字。今從御本。下同。滿而不溢、所以長守富也。富貴不離其身、然後能保其社稷、而和其民人、蓋諸侯之孝也。詩云、戰戰兢兢、如臨深淵、履薄水。

右第三章へ旧文謂諸侯章。考例章首無子曰二字。蓋日本脱失也。所引之詩、乃安高持滿之用心。蓋

文王小、心翼々之意、所以大誠諸侯也。不宜刪去之。

非先王之法服、不敢服。非先王之法言、不敢道。非先王之德行、不敢行。是故非法不言、非道不行。口無擇言、身無擇行。言滿天下、無口過、行滿天下、無怨惡。三者備矣、然後能守其宗廟、蓋卿大夫之孝也。孝也之也字、天子諸侯二章、刊誤去之。此下及士庶人章、三章皆有也字。刊誤存而不刪之。与存、其何意也。刊誤不能無疑。詩云、夙夜匪懈、以事一人。

右第四章へ旧文謂卿大夫章。考例亦脱子曰二字。卿大夫事於朝、故引此詩以深識之。

資事父以事母、而愛同。資於事父以事君、而敬同。故母取其愛、而君取其敬。兼之者父也。故以孝事君、則忠。長則順。忠順不失、以事其上。然後能保其爵祿、御本作禄位、而守其祭祀、蓋士之孝也。詩云、夙興夜寐、毋忝爾所生。

右第五章へ旧文謂士章。考例亦脱子曰二字。所引之詩、使士不怠慢也。

子曰、用天之道、因地之利、謹身節用、以養父母、此庶人之孝也。故自天子已下、御本無已下二字、至於庶人、孝無終始、而患不及者、未之有也。

右第六章へ旧文謂庶人章。考例自天子以下之語与庶人孝有難連為一章者。又有難分為二章者。刊誤所以疑惑者、蓋在茲乎。強連第六章以為一章、刪去六十一字。但要文勢連屬、遂刪去之、而謂朱子刊誤。愚未之信也。

刊誤云此一節夫子曾子問答之言、而曾氏門人之所記也。疑所謂孝經者其本文止如此。其下則或者雜引伝記以釈経文、乃孝經之伝也。竊嘗考之、伝文固多傳會、而経文亦不免有離折增加之失。顧自漢以來、諸儒伝誦、莫覺其非。至或以為孔子之所自著、則又可笑之尤者。蓋経之首統論孝之終始、中乃敷陳天子諸侯卿大夫士庶人之孝、而其末結之曰、故自天子以下至於庶人、孝無終始、而患不及者、未之有也。其首尾相応、次第相承、文勢連屬、脉絡通貫、固是一時之言、無可疑者、而後人妄分以為六七章、今文作六章、古文作七章。又増子曰及引詩書之文、以雜乎

其間。使其文意分斷間隔、而讀者不復得見聖言全体大義、為害不細。故今定此六七章者合為一章、而刪去子曰者、引書者、引詩者、四凡六十一字、以復経文之旧。其伝文之失、又別論之如左方。

考例へ右孝経刊誤之説如此。而其曰首尾相応者、孝経終篇無不。然矣。其曰脉絡通貫者、若以孝之理言之、則終篇無不脉絡通貫者。若以孝之事言之、五等之孝不同其節。豈謂脉絡通貫乎。朱子於大學云、血脉貫通。於中庸云、脉絡貫通。皆舉全篇而言之。孝経旧本亦其全篇次序相承、脉絡貫通、首尾相応者、苟不可誣也。又按孝経曰、徳教加於百姓、刑於四海。曰、能保其社稷、而和於民人。曰、能守其宗廟。曰、能保其爵祿、而守其祭祀。曰、得万国之歡心、以事其先王。曰、得百姓之歡心、以事其先君。曰、郊祀后稷、宗祀文王。此等之語、皆所以下念厥祖、修厥徳也。以是見之、引大雅之詩、於孝子孝孫之行、至切篤美之教也。雖或謂之後人傳會、余未之信也。其余所引者、以類推之、是知孝経刊誤、实非朱子判定之書也。

曾子曰、甚哉孝之大也。子曰、夫孝天之經、御本有也字。今從刊誤、地之義、御本有也字。今從刊誤、民之行也、刊誤無也字。今從御本、天地之經、而民是則之。則天之明、因地之義、以順天下。是以其教不肅而成、其政不嚴而治。先王見教之可以化民也。是故先之以博愛、而民莫遺其親。陳之以德義、而民興行。先之以敬讓、而民不爭。導之以禮樂、而民和睦。示之以好惡、而民知禁。詩云、赫赫師尹、民具爾瞻。右第七章、舊文謂三才章。考例刊誤此下皆以為傳文。而此節以為積以順天下之傳。而今謹按、以順天下與平天下非有兩義。大學傳之十章、誠平天下之義、無疑者焉。若此章、則雖有以順天下一語、不可謂以此積彼。只是因曾子之歎、而言孝之大。是故有以順天下之語也。依有此語、刊誤謂積以順天下之傳。余未之信也。

刊誤云、此以下皆傳文、而此一節蓋積以順天下之意。當為傳之三章、而今失其次矣。但自其章首以至因、地之義、皆是春秋左氏傳所載。子太叔為趙簡子道子產之言。唯易、禮字為孝

字、而文勢反不若彼之通貫。條目反不若彼之完備。明此襲彼非彼取此無疑也。刊誤載左傳子產之言、便平參考。今暫略之。其曰先王見教之可以化民。又與上文不相屬。故溫公改教為孝、乃得相通。而下文所謂德義敬讓禮樂好惡者、却不相應。疑亦裂取他書之成文、而強加裝綴、以為孔子曾子之問答。但未見其所出耳。然其前段文雖非是、而理猶可通。存之無害。至於後段、則文既可疑、而謂聖人見孝可以化民、而後以身先之、於理又已悖矣。況先之以博愛、亦非立愛惟親之序。若之何、而能使民不遺其親耶。其所引詩亦不親切。今定先王見教以下凡六十九字並刪去。

考例、右孝經刊誤之說如此。其曰皆是春秋左氏傳所載明。此襲彼非彼取此無疑也。又有孝經刊誤跋曰、孝經相傳已久。蓋出於漢初左氏未盛行之時。不知何世何人為之也。愚以此兩說見之、其言未可嘗不矛盾。蓋非君子之言也。又先王見教以下刪去曰、文既可疑。今詳其所疑、自聖人見教之教字作、孝字一看。其蓋以教字見之、則以下件々之事皆教也。此教之義

上節自其教不肅而成。之教字一言起來、無可疑者一也。刊誤以為與上文不相屬上者、既可疑也。又刊誤曰、先之以博愛、亦非立愛惟親之序、若之何。而能使民不遺其親一耶。此言苟非君子之言。謹按此章蓋言、夫人雖有孝弟之意、而無教、則民難化而近禽獸。是以先王見下教之可中、以化民也。於是立教之道、先之以博愛、以博愛者、德加於百姓者也。以下德義敬讓禮樂好惡、乃教加於百姓者也。立愛惟親、乃五等之孝既述之。其天子章曰、愛敬於事親、而德教加於百姓、刑於四海。夫德教加於百姓、則豈有遺其親者乎。況其教以德義禮樂、而民興行且和睦、加之敬讓、以好惡、而民不爭且知禁乎。其民雖無道也、庶幾無遺其親者。蓋教之可以化民者如此。然則先王見教以下六十九字不、當刪去決矣。明也。嗚呼、為刊誤者、以己意迫切、輕議聖人、不迫之言、而遂託朱子大儒、以亂聖經、豈不誤乎。所引詩所以誠先之者、也。不當刪去。學者詳之。○此章至終篇、皆述教之所由生也。

子曰、昔者明王之以孝治天下也、不敢遺小國之臣、而況於公侯伯子男乎。故得万国之歡心、以事其先王。治國者不敢侮於鰥寡、而況於士民乎。故得百姓之歡心、以事其先君。治家者不敢失於臣妾、而況於妻子乎。故得人之歡心、以事其親。夫然故生、則親安之、祭則鬼享之。是以天下和平、災害不生、禍亂不作。故明王之以孝治天下如此。詩云、有覺德行、四國順之。

右第八章（旧文謂孝治章）

〔刊誤云〕此一節積民用和睦、上下無怨之意。為傳之四章。其言雖善、而非經文之正意。蓋經以孝而和、此以和而孝也。引詩亦無甚失。且其下文語已更端無所隔礙。故今且得仍舊耳。

〔考例〕右孝經刊誤之說如此。其曰經以孝而和、此以和而孝也者。何。此章首曰、以孝治天下。章尾曰、以孝治天下。如此。以是見之。此章言以孝治天下、則得万国之歡心者、非以孝而和之謂乎。刊誤之言切迫、朱子之言豈如此乎。識者正之。

曾子曰、敢問、聖人之德、其無以加於孝乎。子曰、

天地之性人為貴。人之行莫大於孝。孝莫大於  
於配天。則周公其人也。昔  
者周公郊祀后稷以配天。宗祀文王於明堂以配上  
帝。是以四海之內各以其職來助祭。夫聖人之德、又  
何以加於孝乎。故親生之膝下一以養。父母曰嚴。  
聖人因嚴以教敬。因親以教愛。聖人之教不  
而成。其政不嚴而治。其所因者本也。

右一節へ旧文此節連下節、通為一章、

〔刊誤〕云、此一節釈孝德之本之意。伝之五章也。但  
嚴父配天本因論。武王周公之事、而贊美其孝  
之詞、非謂凡為孝者皆欲如。此也。又  
況孝之所以為大者、本自有親切處、而非此  
之謂乎。若必如此、而後為孝、則是使  
人臣子者、皆有今將之心、而反陷於大不孝  
矣。作傳者、但見其論孝之大、即以附此、而不  
知其非所、以為天下之通訓。讀者詳之、不  
以文書、意為可也。其曰故親生之膝下、以下意却  
親切、但与上文不属、而与下章相近。故今文連  
下二章為一章。但下章之首、語已更端、意亦重復、  
不當通為一章。此語當依古文、且附中章、或  
自別為一章可也。

〔考例〕へ右孝經刊誤の説如此。其曰若必如此而後為  
孝、則是使為人臣子者、皆有今將之心、  
而反陷於大不孝矣。愚説此語、愕然自汗。  
何者孝經本是聖教也。為刊誤者縱是強  
為、伝文、而実孔子之言也。然則聖言亦有使  
為人臣子者、而反陷於大不孝一矣乎。三才章曰、  
先之以博愛。又曰、導之以禮樂。夫博愛天  
子之德、禮樂天子之政、是亦使為人臣子者、皆  
有今將之心、而反陷於大不孝一矣乎。中庸曰、父  
母之喪無貴賤一也。是亦反陷於大不孝一矣乎。夫  
郊天宗祀、天子之礼也。嘗聞聖人以礼教人。未聞  
以教陷人於大不孝一矣。昔日秦襄公祀上帝  
西時、魯季氏舞八佾於庭、皆在孝經未出之前。孔  
子以來二千有餘年、未聞依孝經皆有今將之心、  
而反陷於大不孝一矣。為刊誤者以伝見之。  
是故其曰經与伝不相蒙、各自為義、而強為  
釈孝德之本之伝、遂以郊天宗祀之事、為  
人臣子者大不孝之陷奔也。蓋此章之義言聖人之  
德、所以無以加於孝者也。何以如此  
甚矣乎。嗚呼、為刊誤者將有甚焉者。是  
知刊誤非朱君子之言也。學者當詳之。

子曰「今文無子曰字。下同」。父子之道天性。今文有也字。君臣之義。今文有也字。父母生之。統莫大焉。君親臨之。厚莫重焉。子曰「今文無子曰字。有故字」。不愛其親而愛他人者。謂之悖德。不敬其親而敬他人者。謂之悖禮。以順則逆民無則焉。不在於善。皆在於凶。德雖得之。君子所不貴。御本作「君子不貴也」。君子則不然。言斯可道。斯字御本作「思字」。下斯字同。行斯可樂。斯字作「思者」。自愛敬二字。來其味覺深長。今當從之。德義可尊。作事可法。容止可觀。進退可度。以臨其民。是以其民畏而愛之。則而象之。故能成其德教而行政令。詩云。淑人君子其儀不忒。

右第九章。旧文前節此節連為一章。謂聖治章。章首有一子曰字。刊誤分為二章。而有子曰字。後段既更端。為一章。則章首有子曰字可也。何。故章內子曰字存之不刪乎。刊誤卷頭連六章。為一章。則刪去子曰字。此章則存之不。朱子之所刊豈如此乎。

刊誤云。此一節。教之所由生之意。伝之六章也。古文析不愛其親以下。別為一章。而各冠以子曰。今文則合之。而又通上章為一章。

無此二子曰字。而於不愛其親之上。加故字。今詳此章之首。語更端。當以古文為正。以古文為正。則冠子曰亦可也。不愛其親語意。正与上文相統。當以今文為正。以今文為正。章內存子曰字。誤矣。今當從今文。故字。刪去二子曰字。至君臣之義之下。則又當有脱簡一焉。今不能知其為何字也。悖德以上皆格言。但以順則逆以下。則又雜取左伝所載季文子北宮文子之言。与此文既不相心。而彼此得失又如前章所論子産之語。今刪去凡九十字。刊誤載季文子北宮文子之語。便於參考。今暫略之。

考例。右孝經刊誤之說如此。而今文此節通上節連為一章。而首舉聖人之德。其無以加於孝乎。是故章內述許多之義。以示之。而今竊摘其要言之。人天地之貴。無以加焉。孝民行之貴。無以加焉。嚴父即孝行之大。無以加焉。郊天宗祀。即嚴父之大。無以加焉。生之膝下。曰嚴。乃愛敬之本。無以加焉。聖人之教。因其本也。無以加焉。父子之道天性也。君臣之義乃出於此。非人之所私。無以加焉。蓋聖人之德。所以無無以加於孝者如此。自不愛其

親、至、君子所、不貴、則將、有、以、加、於、孝、而、大違者也。言、此、而、明、無、以、加、於、孝、之、義。自、君子、則、不、然、至、以、臨、其、民、則、立、身、行、道、之、義、此、下、則、德、教、加、於、百、姓、刑、於、四、海、之、事、皆、言、無、以、加、於、孝、也。以、是、見、之、章、內、許、多、之、義、皆、舉、下、無、以、加、於、孝、之、要、而、示、之。然、則、刊、誤、所、議、寧、無、誤、乎。則、非、出、於、豁、然、貫、通、之、人、可、知、也。此、章、之、義、蓋、孝、終、全、篇、之、要、也。其、余、各、章、則、無、以、加、於、孝、之、備、也。所、引、詩、亦、無、妨。學、者、所、當、盡、心、致、思、也。

子曰、孝子之事親、今文有也字、居、則致其敬、養、則致其樂、病、則致其憂、喪、則致其哀、祭、則致其嚴、五者備矣。然後能事親。事親者、居上不驕、為下不乱、在醜不爭。居上而不除、雖日用三牲之養、猶為不孝也。

右第十章 旧文謂紀孝行章

刊誤云、此、節、積、下、始、於、事、親、及、不、敢、毀、傷、之、意、乃、傳、之、七、章、亦、格、言、也。

考例、右、孝、經、刊、誤、之、說、如、此、謹、按、上、章、既、言、孝、之、無、以、加、焉、夫、孝、行、之、事、多、矣、然、舉、其、目、則、敬、樂、憂、

哀、嚴、五、者、而、已、是、故、曰、五、者、備、矣、然、後、能、事、親、刊、誤、所、議、未、穩、當。

子曰、五刑之屬三千、而罪莫大於不孝。要、君、者、無、上、非、聖、人、者、無、法、非、孝、者、無、親、此、大、亂、之、道、也。

右第十一章 旧文謂五刑章

刊誤云、此、一、節、因、上、文、不、孝、之、云、而、繫、於、此、乃、傳、之、八、章、亦、格、言、也。

考例、右、孝、經、刊、誤、之、說、如、此、別、無、妨、者、但、為、傳、文、之、云、更、不、舉、其、非、

子曰、教、民、親、愛、莫、善、於、孝。教、民、禮、順、莫、善、於、弟。移、風、易、俗、莫、善、於、樂。安、土、治、民、莫、善、於、禮。禮、者、敬、而、已、矣。故、敬、其、父、則、子、悅、敬、其、兄、則、弟、悅、敬、其、君、則、臣、悅、敬、一、人、而、千、萬、人、悅。所、敬、者、寡、而、悅、者、衆、此、之、謂、要、道。

右第十二章 旧文謂広要道章

刊誤云、此、一、節、積、要、道、之、意、當、為、傳、之、三、章、但、經、所、謂、要、道、當、自、己、而、推、之、与、此、亦、不、同、也。

考例、右、孝、經、刊、誤、之、說、如、此、謹、按、敬、其、父、敬、

其兄、敬其君、敬一人、此非自<sub>レ</sub>己而推<sub>レ</sub>之乎。第七章曰、先<sub>レ</sub>之以博愛、以<sub>レ</sub>敬讓者、於是可見也。刊誤之云迫切矣。非<sub>レ</sub>朱子之說、可知也。

子曰、君子之教、以<sub>レ</sub>孝也。非<sub>レ</sub>家<sub>ニ</sub>至而日見<sub>レ</sub>之也。教<sub>ニ</sub>以<sub>レ</sub>孝所<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>敬、天下之為人父<sub>ニ</sub>者、教<sub>ニ</sub>以<sub>レ</sub>悌所<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>敬、天下之為人兄<sub>ニ</sub>者、教<sub>ニ</sub>以<sub>レ</sub>敬、天下之為人君<sub>ニ</sub>者、詩云、愷悌君子、民之父母。非<sub>レ</sub>至德、其孰能順<sub>レ</sub>民、如<sub>レ</sub>此其大者乎。

右第十三章 旧文謂<sub>レ</sub> 広至德章

刊誤云 此一節釈<sub>レ</sub> 至德以順<sub>レ</sub> 天下之意。当<sub>レ</sub> 為<sub>レ</sub> 傳之首章。然<sub>レ</sub> 所<sub>レ</sub> 論<sub>レ</sub> 至德語意亦疎。如<sub>レ</sub> 上章之失云。

考例 右孝經刊誤之說如此。其曰語意亦疎何也。亦為<sub>レ</sub> 非<sub>レ</sub> 自<sub>レ</sub> 己而推<sub>レ</sub> 之乎。蓋至德要道謂<sub>レ</sub> 孝也。孝悌臣之德、礼樂之義、教<sub>ニ</sub> 天下、則其教不<sub>レ</sub> 肅而成、其政不<sub>レ</sub> 嚴、而治、以順<sub>レ</sub> 天下、民用和睦。是故謂<sub>レ</sub> 之至德要道也。孝之為<sub>レ</sub> 德。若非<sub>レ</sub> 至德要道、豈能順<sub>レ</sub> 天下、如<sub>レ</sub> 此其大<sub>ニ</sub> 乎。

子曰、君子之事親孝。故忠可<sub>レ</sub> 移<sub>レ</sub> 於君。事<sub>レ</sub> 兄悌。故順可<sub>レ</sub> 移<sub>レ</sub> 於長。居<sub>レ</sub> 家理。故治可<sub>レ</sub> 移<sub>レ</sub> 於官。是故行

成<sub>レ</sub> 於内、而名<sub>レ</sub> 立<sub>レ</sub> 於後世矣。

右第十四章 旧文謂<sub>レ</sub> 広揚名章。第十二章、第十三章、既言<sub>レ</sub> 以<sub>レ</sub> 孝悌臣<sub>ニ</sub> 教<sub>ニ</sub> 天下。此章言<sub>レ</sub> 以<sub>レ</sub> 孝悌理<sub>レ</sub> 家、文勢連属、血脉貫通。刊誤移<sub>レ</sub> 于感応章之下者誤矣。

刊誤云 此一節釈<sub>レ</sub> 立身揚名及上之孝、傳之十一章也。

考例 右孝經刊誤之說如此。其旨不<sub>レ</sub> 穩当、學者照<sub>レ</sub> 之。

子曰、閨門之内、具<sub>レ</sub> 礼矣乎。嚴<sub>レ</sub> 父嚴<sub>レ</sub> 兄、妻子臣妾猶<sub>レ</sub> 百姓徒役也。

右第十五章 今文刪<sub>レ</sub> 去此章。大誤矣。

刊誤云、此一節因<sub>レ</sub> 上章可<sub>レ</sub> 移<sub>レ</sub> 而言。傳之十二章也。嚴父孝也。嚴兄弟也。妻子臣妾官也。

考例 右孝經刊誤之說如此。乃雖<sub>レ</sub> 非<sub>レ</sub> 朱子之書、而閨門章有<sub>レ</sub> 切<sub>レ</sub> 於家<sub>ニ</sub> 者。刊誤載<sub>レ</sub> 之、復<sub>レ</sub> 其旧文者、可<sub>レ</sub> 謂<sub>レ</sub> 得<sub>レ</sub> 也。不<sub>レ</sub> 教<sub>レ</sub> 其家、而教<sub>レ</sub> 其国、可<sub>レ</sub> 謂<sub>レ</sub> 之悖政、玄宗幸<sub>レ</sub> 之由在<sub>レ</sub> 此矣乎。御本刪<sub>レ</sub> 去之者、可<sub>レ</sub> 謂<sub>レ</sub> 誤也。今從<sub>レ</sub> 刊誤。

曾子曰、若<sub>レ</sub> 夫慈愛恭敬安親揚名、參聞<sub>レ</sub> 命矣。敢問<sub>レ</sub> 從<sub>レ</sub>

父之命、可謂孝乎。子曰、是何言。與。是何言。與。昔者天子有爭臣七人、雖無道、不失去其天下。諸侯有爭臣五人、雖無道、不失去其國。大夫有爭臣三人、雖無道、不失去其家。士有爭友、則身不離於令名。父有爭子、則身不陷於不義。故當不義、則子不可以弗爭於父。臣不可以弗爭於君。故當不義、則爭之。從父之令、又焉得為孝乎。

右第十六章へ旧文謂諫爭章

刊誤云、此不解經、而別發一義。宜為傳之十三章。

考例へ右孝經刊誤之說如此。只是強為經傳之分。故於此章及喪親章、曰、不解經、而別發一義。抑有經文、無傳文、有傳文、無經文之例、春秋之傳有之。然彼傳乃傳者之言、即為經之傳。此伝実孔子之言、而為經文一明矣。謹按、此章曾子既聞慈愛恭敬安親揚名之節了、而發此問。以此為傳文者、何意也。苟為朱子刊誤、未可之信。

子曰、君子事上進、思思、忠退、思思、補過、將順其美、匡救其惡。故上下能相親。詩曰、

心乎愛矣。遐不謂矣。中心藏之。何日忘之。

右第十七章へ旧文謂事君章。而在感慮章之下。今以類相屬、移諫諍章之下。

刊誤云、此一節釈忠於事君之意。當為傳之九章。因上章爭臣、而誤屬於此耳。進思退思、忠退思、補過、亦左伝所載、士貞子語。然於文理無害。引詩亦足以發明移孝事君之意。今並存之。

考例へ右孝經刊誤之說如此。其所議、皆出下于分經傳之誤上。今更不考弁。

子曰、昔者明王事父孝。故事天明。事母孝。故事地察。長幼順。故上下治。天地明察、神明彰矣。故雖天子、必有尊也、言有父也。必有先也、言有兄也。宗廟致敬、敬不忘親也。修身慎行、恐辱先也。宗廟致敬、鬼神著矣。孝悌之至、通於神明、光於四海、無所不通。詩云、自西自東、自南自北、無思不服。

右第十八章へ旧文謂感慮章、而在事君章之上諫諍章之下。刊誤從古文、則在至德章之下広揚名章之上。從刊誤意、為大義者、移之于事君章之下広揚名章之上、而為傳之十章。今謹考移事君章之

下喪親章之上。未<sub>レ</sub>知其然。否<sub>レ</sub>。識者更改<sub>レ</sub>移<sub>レ</sub>之。〔刊誤〕此一節。天子之孝。亦格言焉。當<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>傳之十章。

〔考例〕右孝經刊誤之說如此。其曰。積<sub>レ</sub>天子之孝。何也。此章所<sub>レ</sub>言。蓋孝悌之至。則必幽通<sub>レ</sub>于神明。明<sub>レ</sub>光<sub>レ</sub>于四海。其孝悌之至。德功之成。如此感<sub>レ</sub>于天地神明。必<sub>レ</sub>于四海人心。是故今文<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>感<sub>レ</sub>感<sub>レ</sub>章。所<sub>レ</sub>引詩者。言<sub>レ</sub>忠<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>廣<sub>レ</sub>且<sub>レ</sub>易<sub>レ</sub>。

子曰。孝子之喪<sub>レ</sub>親。哭<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>復。禮無<sub>レ</sub>容<sub>レ</sub>言。不<sub>レ</sub>文。服美不<sub>レ</sub>安。聞<sub>レ</sub>樂不<sub>レ</sub>樂。食<sub>レ</sub>旨不<sub>レ</sub>甘。此哀戚之情。三日<sub>レ</sub>而食。教<sub>レ</sub>民無<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>死傷<sub>レ</sub>生。毀<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>滅。性。此聖人之政。喪<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>過<sub>レ</sub>三年。示<sub>レ</sub>民有<sub>レ</sub>終。為<sub>レ</sub>之棺槨衣衾。而舉<sub>レ</sub>之。陳<sub>レ</sub>其篋篋。而哀戚之。擗踊哭泣。哀<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>送<sub>レ</sub>之。卜<sub>レ</sub>其宅兆。而安<sub>レ</sub>措<sub>レ</sub>之。為<sub>レ</sub>之宗廟。以<sub>レ</sub>鬼享<sub>レ</sub>之。春秋祭祀。以<sub>レ</sub>時思<sub>レ</sub>之。生<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>愛敬。死<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>哀戚。生<sub>レ</sub>民之本<sub>レ</sub>矣。死<sub>レ</sub>生<sub>レ</sub>之義備<sub>レ</sub>矣。孝子之事<sub>レ</sub>親終<sub>レ</sub>矣。

右第十九章 〔旧文謂 喪親章 〕

刊誤云。傳之十四章。亦不<sub>レ</sub>解<sub>レ</sub>經。而別<sub>レ</sub>發<sub>レ</sub>一義。其語尤<sub>レ</sub>精約也。

〔考例〕右孝經刊誤之說如此。考例詳<sub>レ</sub>于諫爭章後。

〔刊誤〕熹<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>衡山胡侍郎論語說。疑<sub>レ</sub>孝經引<sub>レ</sub>詩。非<sub>レ</sub>經本文。初甚駭焉。徐<sub>レ</sub>而察<sub>レ</sub>之。始悟<sub>レ</sub>胡公之言。為<sub>レ</sub>信。而孝經之可<sub>レ</sub>疑者。不<sub>レ</sub>但<sub>レ</sub>此也。因以<sub>レ</sub>書質<sub>レ</sub>之。沙隨程可久丈。程答書曰。頃見<sub>レ</sub>玉山汪端明。亦以為<sub>レ</sub>此書多出<sub>レ</sub>後人傳<sub>レ</sub>。於是乃知。前輩讀<sub>レ</sub>書精審。其論固已及<sub>レ</sub>此。又竊自幸。有所<sub>レ</sub>因述<sub>レ</sub>。而得<sub>レ</sub>免<sub>レ</sub>於鑿<sub>レ</sub>妄言之罪也。因欲未<sub>レ</sub>撥。取他書之言。可<sub>レ</sub>發<sub>レ</sub>此經之旨者。別<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>外傳。顧未<sub>レ</sub>敢<sub>レ</sub>耳。淳熙丙午八月十二日記。

孔叢子亦偽書。而多用<sub>レ</sub>左氏語者。但孝經相傳已久。蓋出<sub>レ</sub>於漢初左氏未<sub>レ</sub>盛行之時。不<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>何世何人為<sub>レ</sub>之也。孔叢子叙事至<sub>レ</sub>東漢。然其詞氣甚卑近。亦非<sub>レ</sub>東漢人作。所<sub>レ</sub>載孔臧兄弟往還書疏。正類<sub>レ</sub>西京雜記中偽造漢人文章。〔西京雜記之繆。匡衡伝注中。顔氏已弁<sub>レ</sub>之。可<sub>レ</sub>考。〕皆甚可<sub>レ</sub>笑。所<sub>レ</sub>言不<sub>レ</sub>肯<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>三公等事。以<sub>レ</sub>前書考<sub>レ</sub>之。亦無<sub>レ</sub>其實。而通監皆誤信<sub>レ</sub>之。其他此類不<sub>レ</sub>一。欲作<sub>レ</sub>一書論<sub>レ</sub>之。而未<sub>レ</sub>暇也。姑記<sub>レ</sub>於此云。

〔考例〕右兩說孝經刊誤之言如此。前節曰。此書多出<sub>レ</sub>後人傳云。此以下。其有<sub>レ</sub>孝經之言見<sub>レ</sub>于左氏傳者。故<sub>レ</sub>之云也。後節曰。孝經相傳已久。蓋出<sub>レ</sub>於漢初左氏未<sub>レ</sub>盛行之時。不<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>何世何人為<sub>レ</sub>之也。以

此二說見之、雖曰後人傳會、未確論也。若是強謂朱子刊誤、但有此二說矣乎。至其各章後之弁、則似非朱子之說。今以四書六經所論與孝經刊誤所議見之、如玃珠之與美玉。是故於刊誤之言、不能無疑。又按孝經首言孝之理、中散言孝之節及天下國家以孝治能順和、末言慎終追遠之義、首尾相成、血脈貫通。一篇大義備矣。其体与中庸相似。可謂無誤之經也。不可妄為經為傳而錯聖經也。但非此書是謂孔子自著矣。今謹疑刊誤可疑者、信其當信者。書之以仰君子之是正云。

孝經刊誤考例終

万治貳年

林鐘上旬

池田屋刊行

右孝經刊誤考例一冊附与門人津田元養生 靈蘭堂

(印)(印)